

# 東城自動車工業株式会社

## 2012年度 環境活動レポート

(2011年8月21日～2012年8月20日)



本社外観

作成日 : 2012年10月28日  
更新日 :

# 東城自動車工業株式会社

## 環境方針

### <環境理念>

私たちは自動車整備・販売等に携わる者として、適正整備による二酸化炭素排出量の削減や、燃費改善による地下資源枯渇への対応等、環境保全活動こそがお客様の利益と繁栄、そして持続発展可能な経済社会の構築につながることを自覚し、あらゆる面で地球環境に配慮した活動に積極的に取り組みます。

### <環境保全への行動指針>

#### 1. 地球温暖化防止のため、二酸化炭素排出量の削減に取り組みます。

事務所及び工場における電力の削減、社有車のガソリン・軽油使用量の管理による二酸化炭素排出量の削減に努めます。

また、環境対応車の販売促進により、二酸化炭素排出量の削減に努めます。

#### 2. 資源の有効利用のため、廃棄物の削減に取り組みます。

事務所及び工場において、廃棄物を分別回収し再使用及び再生利用率を高めることにより、廃棄物の削減、資源の有効利用に努めます。

#### 3. 水資源の有効利用のため、節水に取り組みます。

事務所での節水及び工場での洗車時の使用水量の削減に努めます。

#### 4. 地球環境保全のため、環境に配慮した自動車整備に取り組みます。

お客様の自動車使用における環境負荷を、私たちの整備責任と自覚し、環境配慮整備、リサイクルパーツの活用に努めます。

#### 5. 地球環境保全のため、化学物質使用量の削減に取り組みます。

整備・修理工程における化学物質の使用を管理し、削減に努めます。

#### 6. 地球環境保全のため、グリーン購入に取り組みます。

物品の使用に際し、環境に配慮した製品の購入に努めます。

これらについて環境目標・活動計画を定め、定期的に見直しを行い継続的な改善に努めます。

#### 7. 環境関連法規制や当社が約束したことを順守します。

#### 8. 環境への取り組みを環境活動レポートとしてとりまとめ公表します。

制定日： 2008年 11月 1日

改定日： 2010年 8月 20日

東城自動車工業株式会社  
代表取締役 城 貴博

## □組織の概要

(1) 事業所名及び代表者

東城自動車工業株式会社 代表取締役 城 貴博

(2) 所在地

本 社：兵庫県加古川市米田町平津680番地の1

加古川支店：兵庫県加古川市金沢町16番地の3

(3) 環境管理責任者氏名及び連絡先

総務課長 後藤 英樹 TEL：079-431-1122

(4) 事業内容

自動車の整備・修理・販売及び関連商品の販売

(5) 事業の規模

売上高 562百万円 (2011年8月21日～2012年8月20日)

	本 社	加古川支店	全 社
従 業 員	23名	11名	34名
延べ床面積	1,360㎡	698㎡	2,058㎡

(6) 事業年度

9月～翌年8月 (8月21日～翌年8月20日)

当レポートの対象期間は 2011年8月21日～2012年8月20日です。

この期間を 2012年度とします。

## □認証・登録の対象組織・活動

登録組織名：東城自動車工業株式会社

対象事業所：加古川支店

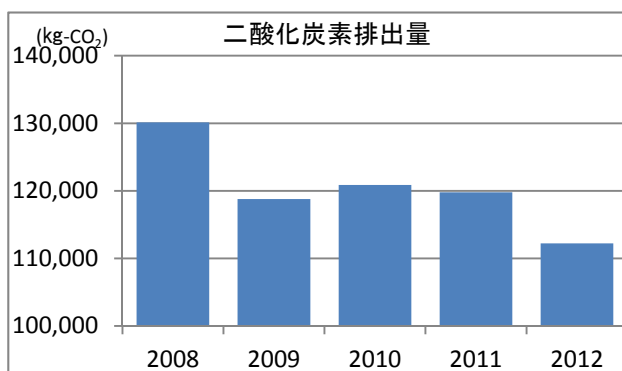
活 動：自動車の整備・修理・販売及び関連商品の販売

## □主な環境負荷の実績

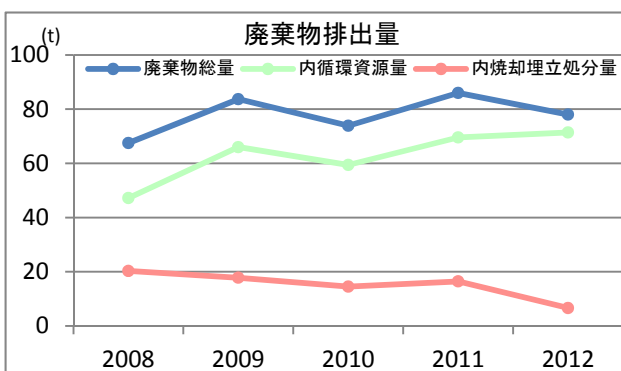
項目	単位	2008年 旧基準年度	2009年	2010年	2011年 新基準年度	2012年 レポート 対象年度
二酸化炭素排出量 二酸化炭素排出係数 0.378	kg-CO <sub>2</sub>	130,124	118,782	120,871	119,774	112,234
<b>廃棄物排出量</b>	t	67.5	83.7	73.9	86.0	78.0
一般廃棄物排出量		10.9	10.7	14.7	15.1	17.1
循環資源量		0.0	1.2	8.1	8.3	10.9
焼却・埋立処分量		10.9	9.5	6.6	6.8	6.2
産業廃棄物排出量		56.6	73.1	59.2	70.9	60.9
循環資源量		47.2	64.8	51.3	61.3	60.5
焼却・埋立処分量		9.4	8.3	7.9	9.6	0.4
合計 循環資源量		47.2	66.0	59.4	69.6	71.4
合計 焼却・埋立処分量		20.3	17.8	14.5	16.4	6.6
総排水量		m <sup>3</sup>	1,844	1,798	2,512	2,332

※参考

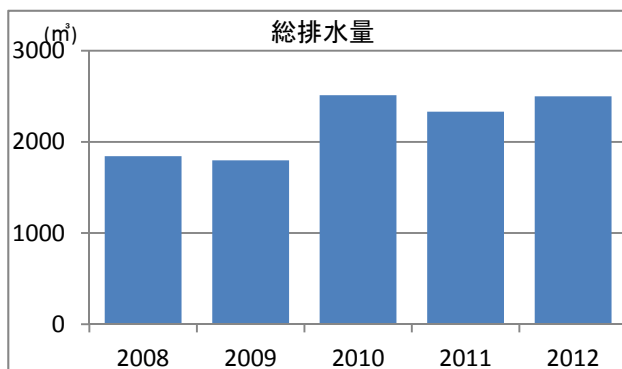
環境配慮整備・製品の 販売促進	台	156	141	215	594	808
--------------------	---	-----	-----	-----	-----	-----



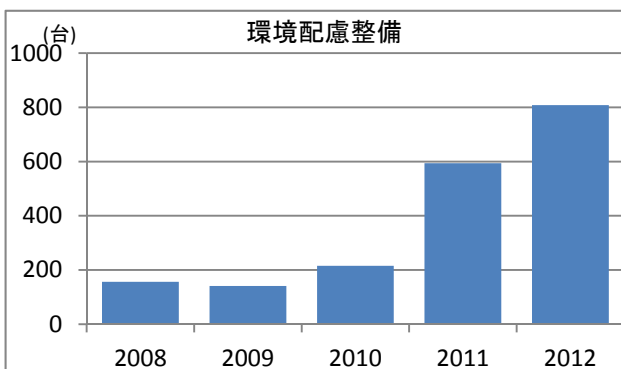
二酸化炭素排出量は5年間で13.7%削減  
出来ました。



廃棄物総排出量の内、循環資源化を  
推進し、焼却・埋立処分量を削減  
しています。



水使用量の削減が進んでいません。  
今後の取組みにおける最も重要な  
課題です。



環境配慮整備・製品の販売は、5年  
間で5倍以上に増加しました。売上  
にも大きく貢献しています。

□環境目標及びその実績

項目	年 度 基準年度	2012年		2013年	2014年	2015年
		目 標	実 績	目 標	目 標	目 標
		基準年度比	基準年度比	基準年度比	基準年度比	基準年度比
電力の二酸化炭素 排出量削減	203.0 kg-CO <sub>2</sub> /百万	201.0	178.0	200.0	198.9	197.9
		99.0%	87.7%	98.5%	98.0%	97.5%
自動車燃料の二酸化 炭素排出量削減	108.5 kg-CO <sub>2</sub> /百万	107.4	98.9	106.9	106.3	105.8
		99.0%	91.2%	98.5%	98.0%	97.5%
二酸化炭素排出量合計	311.5 kg-CO <sub>2</sub> /百万	308.4	276.9	306.8	305.3	303.7
		99.0%	88.9%	98.5%	98.0%	97.5%
一般廃棄物の削減	19.2 kg/百万	19.0	16.6	18.9	18.8	18.7
		99.0%	86.5%	98.5%	98.0%	97.5%
産業廃棄物の削減	64.6 kg/百万	64.0	54.9	63.6	63.3	63.0
		99.0%	85.0%	98.5%	98.0%	97.5%
水使用量の削減	6.63 m <sup>3</sup> /百万	6.56	6.68	6.53	6.50	6.46
		99.0%	100.8%	98.5%	98.0%	97.5%
環境配慮整備・ 製品の販売促進	1.69 台/百万	1.71	2.16	1.72	1.72	1.74
		101.0%	127.8%	101.5%	102.0%	103.0%
化学物質使用量の 削減	10.09 kg/百万	9.99	8.86	9.94	9.89	9.84
		99.0%	87.8%	98.5%	98.0%	97.5%
事務用品のグリーン 購入	48.1 %	48.3	41.1	48.6	48.8	49.1
		100.5%	85.4%	101.0%	101.5%	102.0%

※購入電力の二酸化炭素排出係数：0.378kg-CO<sub>2</sub>/kWh

※産業廃棄物の削減対象の設定について

産業廃棄物の内、金属くず・廃バッテリー・廃油（一部）・廃タイヤ（一部一般廃棄物扱い）については、有価品として再生利用されているため、削減対象から除外しています。但し、これらの廃棄物は市況の変化により、有価品で無くなる可能性も十分にあるため、総量把握においては、廃棄物としてカウントします。

## □環境活動の取組み計画と評価

取組み計画	達成状況	評価（結果と今後の方向）
<b>電力の削減</b>		目標達成
・空調の適温化（夏場28℃、冬場19℃程度）	○	支店の使用量が仕事量の増加に伴い増加したが、全社評価において環境効率指標、また総量評価においても達成することが出来た。空気圧縮機に関するメンテナンスが前年来有効な取組みに出来ていないので、次年度も継続活動とする。 当社における最大のCO <sub>2</sub> 発生源であることを全社員が自覚し行動します。
・空気圧縮機のエア漏れ点検	△	
・空気圧縮機の圧力調整	△	
・照明器具の定期清掃の徹底	△	
・休憩時間等の消灯の徹底	○	
・出入り業者への啓発・周知徹底	○	
<b>自動車燃料の削減</b>		目標達成
・不必要なアイドリングストップ	×	本社においてお客様への貸出代車の燃費が向上し大きく削減出来たことは、啓発活動の成果が出たものと思われる。 営業車のアイドリングストップが出来ていないので、継続して取り組みます。
・代車貸出時の燃料削減PR	○	
・代車貸出の抑制（自転車の多用）	△	
<b>一般廃棄物の削減</b>		目標達成
・分別の徹底	△	支店の排出量が仕事量の増加に伴い増加したが、全社評価において環境効率指標、また総量評価においても達成することが出来た。支店のリサイクル先の開拓が依然進んでいないので、継続して調査を進めます。
・ガソリン以外の新聞、パンフレット等のリサイクル先の調査開拓	×	
・社内LANの活用による、紙使用の削減	○	
<b>産業廃棄物の削減</b>		目標達成
・環境負荷の少ない処分方法の調査	△	全社で環境効率指標、また総量評価においても達成することが出来たが、まだ埋立処分の品目が残っているもので、さらに負荷の少ない処分方法へと移行できるように活動を進めます。
<b>水使用量の削減</b>		目標未達成
・洗車機のメンテナンスによる、適正散水状態の確保	△	本社洗車機使用量の増加を主因として目標を達成できなかったが、年度後半、洗車機使用方法の見直しにより、削減効果が表れてきた。前年も達成できていないので、随時見直しを行いながら削減に努めます。
・使用水量管理による、漏水管理	○	
<b>環境配慮型整備・製品の販売促進</b>		目標達成
・店内POPによる、お客様への周知徹底	○	本社で大幅に達成したが、支店単独では未達成となった。再度勉強会等情報を収集し、販売促進に努めます。
・対応部品の事前確認	△	
・環境配慮製品の情報収集	△	
<b>化学物質使用量の削減</b>		目標達成
・再生シナーの調査	×	一部負荷の大きかった塗料を水性に変更することができ、目標を達成した。今後も適宜見直しをして、削減に取り組めます。
<b>事務用品のグリーン購入</b>		目標未達成
・事務用品グリーン購入対象品目及び比率調査	△	活動は出来ているが、数値化のプロセスに問題があり達成できていない。継続して調査を行います。
・対象商品の情報収集及び購入	△	

達成状況評価：○目標達成に貢献した △一部貢献できなかった ×ほとんど貢献できなかった

□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）	評価
自動車リサイクル法	使用済み自動車、引き取り業者・フロン回収業者登録等	○
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物（汚泥、廃油、廃アルカリ、廃プラスチック、金属くず、ガラスくず等）、特別管理産業廃棄物（引火性廃油）	○
騒音・振動規制法	空気圧縮機、送風機等の設置・変更届	○
水質汚濁防止法	自動式車両洗浄施設、油水分離槽等の届出、水質基準の遵守	○
浄化槽法	浄化槽設置の届出、水質基準の遵守	○
下水道法	油水分離槽等の届出、水質基準の遵守	○
大気汚染防止法	VOC発生施設、排出基準の遵守	○
悪臭防止法	トルエン、キシレン等排出規制の遵守	○
PRTR法	フロン、トルエン、キシレン、鉛等の報告（届出必要数量には達していない）	○
自動車NO <sub>x</sub> ・PM法	重点対策地域及び車種による排出基準の確認・措置対応	○
フロン回収・破壊法	業務用エアコン廃棄時の回収対応	○
高圧ガス保安法	酸素、アセチレン、窒素、二酸化炭素等ボンベ使用に関する事故時の届出、貯蔵の技術上の基準の遵守	○
労働安全衛生法	アセチレンガス等溶接、塗装ブース等の設置届け	○
消防法	シンナー、灯油、潤滑油等の許可、届出、基準の遵守	○

評価基準：○順守 △一部対応中 ×違反している

環境関連法規制及びその他の法規制等は遵守されており、関係当局の違反等の指摘は、過去3年間ありません。

訴訟はありません。

□代表者による全体の評価と見直し

[目標・活動計画について]

2012年度は、環境効率指標による評価を導入し、売上百万円当たりを分母に用いる評価と、総量評価との2点から成果を確認することが出来ました。達成状況の確認方法としては、環境効率指標に目標値を設定し、評価を行いました。

各活動計画について、電力の削減、自動車燃料の削減、一般廃棄物の削減、産業廃棄物の削減、環境配慮整備・製品の販売促進、化学物質使用量の削減の6項目については、環境効率指標による目標も達成し、また総量においても基準年より削減することが出来ました。しかし水使用量の削減と事務用品のグリーン購入の2点は目標未達成となりました。水使用量の削減については、3年連続で未達成となっています。

達成した取組みについて、自動車燃料の削減では、本社のガソリン使用量の半分以上を占めるお客様への貸出代車の燃料使用量が削減できたことを高く評価しています。これは直接的に社員の働きによって削減できるものではなく、PR活動によってお客様が燃費の良い運転をされたことによるものであり、環境活動が外部へ発信出来ていることの表れと考えます。

また環境配慮整備・製品の販売促進では、初めて取組んだ2009年度の141台に対し当年は808台の実績となりました。これは当社にとって大変強みとなる販売商品が新たに出来たことを意味します。

一方未達成となった水使用量の削減について3年続いて未達成となりましたが、今年度は増加の原因について明確に特定することができ、また環境効率指標の導入により達成への道筋が見えてきました。

事務用品のグリーン購入について、その購入の取組みについては問題なく出来ていると考えますが評価方法を定めることが出来ていないために、目標設定及び評価が上手く機能していません。情報収集をし、当社に合った評価方法の早期策定に努めます。

### [教育訓練について]

教育訓練として年度当初より環境効率指標の導入に対する教育を続けていますが、実際には結果が見えるようになった今から、理解を深め、実感することが出来るようになると考えます。これに対する教育は継続して行っていくことが重要です。

また、2008年のキックオフから4年が経過し、当初より活動を続けているスタッフと、新入社員や中途入社スタッフとでは理解度、また取組に対する温度差が生じています。新人に対しては、入社時教育後は次の一般・専門教育まで特に教育体制が構築されていませんが、その間を補う、次の段階の教育の必要性について検討を指示しています。

### [外部コミュニケーション・遵法対応について]

これまで課題として残してきました加古川支店の消防法対応については、設備の更新を持って対応を完了しました。

環境に対する新たな外部コミュニケーションは発生しませんでした。内部コミュニケーションを当年行った、ATF流出トラブル対応や、リフト使用時のジャッキアップポイントの確認などに見られるように、事故や外部環境への汚染など、事業活動には常にリスクが存在します。軽微なトラブル事象を内部コミュニケーションとして取り込み、情報共有また安全教育とすることにより、環境保全に努めていきます。

### [次年度に向けて]

本年度の環境効率指標による評価の導入は、2008年のスタートから後、総量評価の限界を感じていた現状にとって、今後の取組みに希望を見出せる大きな転換となりました。4年を振り返って見たとき、例えば新入社員のゴミ出しなどを見てみると、継続して取組んできたスタッフとのレベル差を感じ、EA21を採用したことの効果を明確に実感できるようにもなって参りました。

2013年度の目標設定については、当年環境効率指標の導入によりその多くが達成出来ましたが、新たな取組みの初年度ということもあり、その設定については推移を確認するため、環境配慮整備・製品の販売を除いて2011年度に設定した中期目標を維持します。

次年度の活動は、本年同様常に全社で取組み、PDCAサイクルを回しながら目標達成手段を実行することによりしっかりと達成してまいります。また、お客様にも十分に関わって戴きながら環境活動と本業の発展にこのEA21を存分に活用してまいります。